

星のたより

2023(令和5)年
8月号
Vol. 347

☆今月の豆知識☆
ほ がきれいに見える条件は？ と聞かれたら、どう答えるかなあ。「まち明かりがない」はもちろんだけど「空気がきれい」も大切だよ。毎年夏と冬、環境省さんが星空の見え方の観察を呼びかけていて、8月7日～16日が観察期間だよ。詳しくは、環境省ホームページ「令和5年度 夏の星空観察について」を見てね。



「星まつり」開催中

～8月11日～15日は
お食事コーナーも出店～

第30回星まつり、今年は主に夏休み中の土日とお盆期間におこないます。期間中、工作体験コーナーやクイズコーナー、プラネタリウム、大型望遠鏡での観察会など、盛りだくさんの内容です。お盆期間中は昼食コーナーもありますので、ホームページに掲載しているチラシを見て「これ!」というメニューをチェックしてくださいね。メニューによっては予約が必要ですので、ご注意ください。8月12日(土)、13日(日)は、宇宙ふしぎ探検「ペルセウス座流星群を見よう」もおこないます。



星まつり：7月29(土)、30(日)、
8月5(土)、6(日)、11(金)～15(火)、19(土)、20(日)

スター・ウィーク ～星空に親しむ週間～

～星を見て、掲示板で
つながりましょう～

「スター・ウィーク ～星空に親しむ週間～」は、子供から大人まで幅広く星空に親しんでもらおう! という想いから始まった「星空に親しむ」キャンペーンです。1995年に始まり、2023年で29回目となります。毎年8月1日～7日を中心に、全国各地で星空に親しむイベントがおこなわれます。晴れた夜には、ちょっと遅くまで起きて星たちとふれあってみませんか? 宇宙の中の自分を感じられるかもしれません。今年の掲示板は「いま星を見えています」に加えて「いま天文台にいます」をおこないます。名付けて「いま星・いま天」掲示板。星を見て、掲示板に書き込んでたくさんの人とつながりましょう。詳しくは、スター・ウィークHPをご覧ください。



スター・ウィーク：8月1日(火)～7日(月)


イベント★耳より情報

☆内容や日程が変更となる場合があります。
公式ホームページで最新情報をご確認ください

☆期間展示☆ 「鳥取天文協会活動展」6月21日(水)～9月18日(月祝)
主に鳥取県内の天文愛好家の星空の写真やお役立ち手作りグッズなどを展示しています。

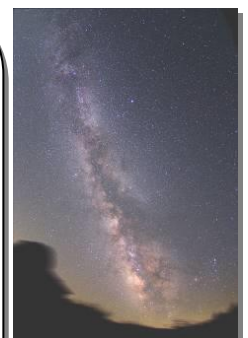
☆プラネタリウム☆ 第1部 専門職員によるライブトーク
第2部 テーマ番組「月をめざして」 6月21日(水)～9月18日(月祝)

☆夜間観望会☆ ☆8月のテーマとおすすめ情報

こと座のドーナツ星雲 M57	4(金)、5(土)	
ヘルクス座の星の集まり M13	11(金)～15(火)、18(金)、19(土)	
月	25(金)、26(土)	
観望会で満天の星が楽しめる	5(土)、6(日)、8(火)～15(火)、17(木)～20(日)	
観望会で月がよく見える	1(火)、23(水)～27(日)、30(水)	

☆8月の休館日 7(月)、16(水)、21(月)、22(火)、28(月)、29(火)

※イベントの詳細やその他の情報はさじアストロパークのホームページなどを参考にしてください。



プラネタリウム & 天体観察会

～ 「星取県」で昼も夜も星空満喫 ～

1. プラネタリウム ☆平日3回、土日祝4回投影

さじアストロパークのプラネタリウムは、前半が専門職員によるライブトーク、後半は、テーマ番組を投影しています。前半のライブトークでは、当日夜に見える星空や季節の星座などを紹介しています。

夏のテーマ番組「月をめざして」 投影開始

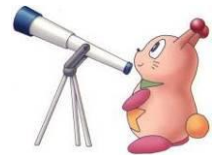
夏のテーマ番組「月をめざして」の投影が始まりました。ロケットに夢と希望を持ち続けて努力し、実現へと導いたパイオニアたちの物語をはじめ、人工衛星やロケットが飛ぶ仕組みをわかりやすく紹介します。



プラネタリウム・天体観察会
どちらも定員40名で実施中

2. 103cm大型望遠鏡で夜間観望会(天体観察会)

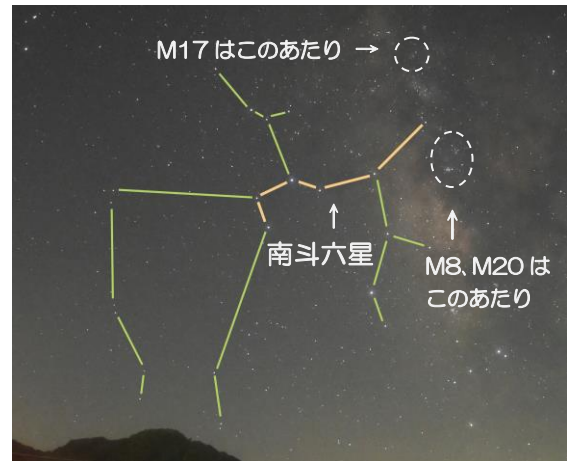
103cm大型望遠鏡を使った「夜間観望会」で、見ごろの天体を観察しています。月明かりの有無や空の状態により、当日の見ごろの天体が異なります。平日及び日曜日のご利用については、個人の方はご利用日の前の開館日・午後5時まで、団体の方は曜日にかかわらず1カ月前までにご予約の上ご利用ください。



8月の注目天体情報

☆いて座

いて座に描かれている半人半馬は、ケンタウルス族のケイローンの姿です。ケイローンは正義感が強くて、ギリシャ神話の若い英雄たちの先生でもあります。いて座の歴史は古く、古代バビロニア時代にはすでに弓を引く姿として登場しています。南の空に北斗七星を小型にしたような6つの星で形作られる南斗六星を目印にさがしてみてください。



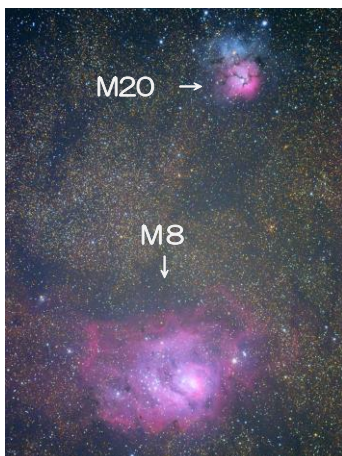
☆いて座にある散光星雲

いて座には散光星雲がたくさんあります。

M17 (愛称: オメガ星雲)

ギリシャ文字のΩ (オメガ) に似ている星雲ですが、白鳥など別な姿にも見えるかもしれません。

距離 6,500 光年



M20

(愛称: 三裂星雲)

中央の暗黒帯により3つに裂かれているため「三裂星雲」と呼ばれています。

距離 5,600 光年

M8 (愛称: 干潟星雲)

大きな星雲で、双眼鏡での観察がおすすめです。

距離 3,900 光年

星雲・星団について ⑤

散光星雲 (さんこうせいいうん) 1

「H II 領域」

恒星は、水素原子がたくさん集まり誕生します。誕生した星の周りには、たくさん水素原子のガス雲があって、光始めた星の影響によりガス雲が電離発光して見えます。電離した水素原子のガス雲のため H II 領域と呼ばれていて、写真では赤い姿として見ることができます。

月明かりのない夏の夜空には、双眼鏡で楽しめる星雲もたくさんあります。

ペルセウス座流星群&期間展示

毎年恒例のペルセウス座流星群の時期になりました。「まだ流れ星を見た事がない」という方は是非この機会に流れ星を見てみませんか？

ペルセウス座流星群

ペルセウス座のあたりから四方八方に飛ぶ流れ星をいいます。

活動期間：7月20日～8月20日

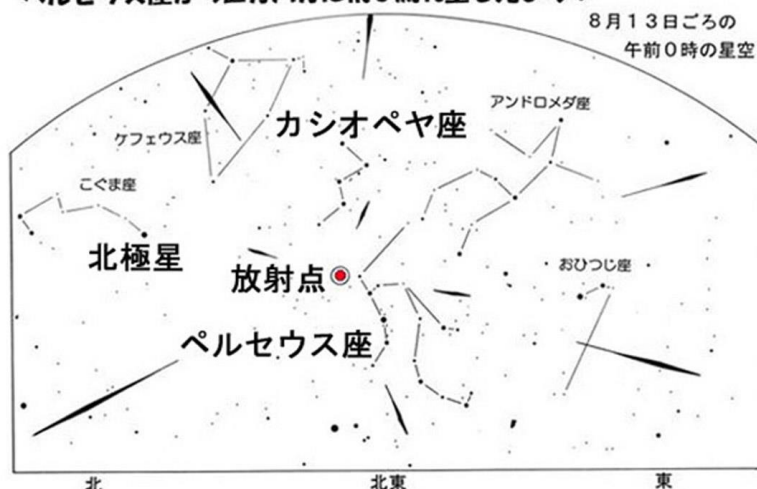
極大日（多く流れる日）：8月12日夜
～13日明け方ごろ

見える数：1時間あたり40～50個

秋の星座ペルセウス座を中心に広い範囲を眺めましょう。早い時間なら北東の空、

夜明け前などは天頂付近を眺めます。また、極大日が過ぎても多く流れる可能性があります。14日以降も眺めてみましょう。

ペルセウス座から四方八方に飛ぶ流れ星を見よう！



※月出は12日(土)が0時55分、
13日(日)が1時47分
今年は月が出てくるのが遅いので、条件としては良いでしょう。

準備するもの

- ・長袖、長ズボン — 夏でも夜は冷え込む事があります。また虫に刺されることも少なくなります。
- ・敷物 — ビニールシートなどあれば寝転がったりして観察できます。
ただし眠くなってしまうので寝ない工夫が必要です。
- ・懐中電灯 — 夜の活動には必要なものです。赤いセロハンか赤いカバーが付いていれば目に優しいでしょう。観察中は人に向けることはやめましょう。下向きで使います。
- ・虫除け — 蚊などいる時期ですので必要です。刺されないように。
- ・星座早見 — 星の位置を知るのにあたらよいでしょう。
- ・筆記用具 — 記録が必要な時があるかもしれません。
- ・時計 — 流れた時刻を知る事ができます。

期間展示 ～鳥取天文協会活動展～

6月21日(水)より天文台1階ロビーにて、鳥取天文協会活動展が行われています。

「鳥取天文協会」は1995年4月1日に設立された、鳥取近隣の天文愛好家の会です。現在五十数名の会員が、望遠鏡で星を観察したり、撮影したり、一般の方への天体観察会をおこなったりとさまざまな活動を展開しています。

会場には、会員の方の撮影された天体写真や、工夫を凝らした工作が展示してあります。入館料のみでご覧いただけますので、天文台にぜひお越しください。

鳥取市さじアストロパーク期間展示
とっとりてんもんきょうかいかつどうてん
鳥取天文協会活動展
展示期間：2023(令和5)年 6月21日(水)～9月18日(月・祝)

主 催：鳥取市さじアストロパーク
出 展：鳥取天文協会(事務局：鳥取市さじアストロパーク)
公式HP：<https://toritenkyo.blogspot.com/>

「鳥取天文協会」は1995年4月1日に設立された、鳥取近隣の天文愛好家の会です。現在五十数名の会員が、望遠鏡で星を観察したり、撮影したり、一般の方への天体観察会をおこなったりとさまざまな活動を展開しています

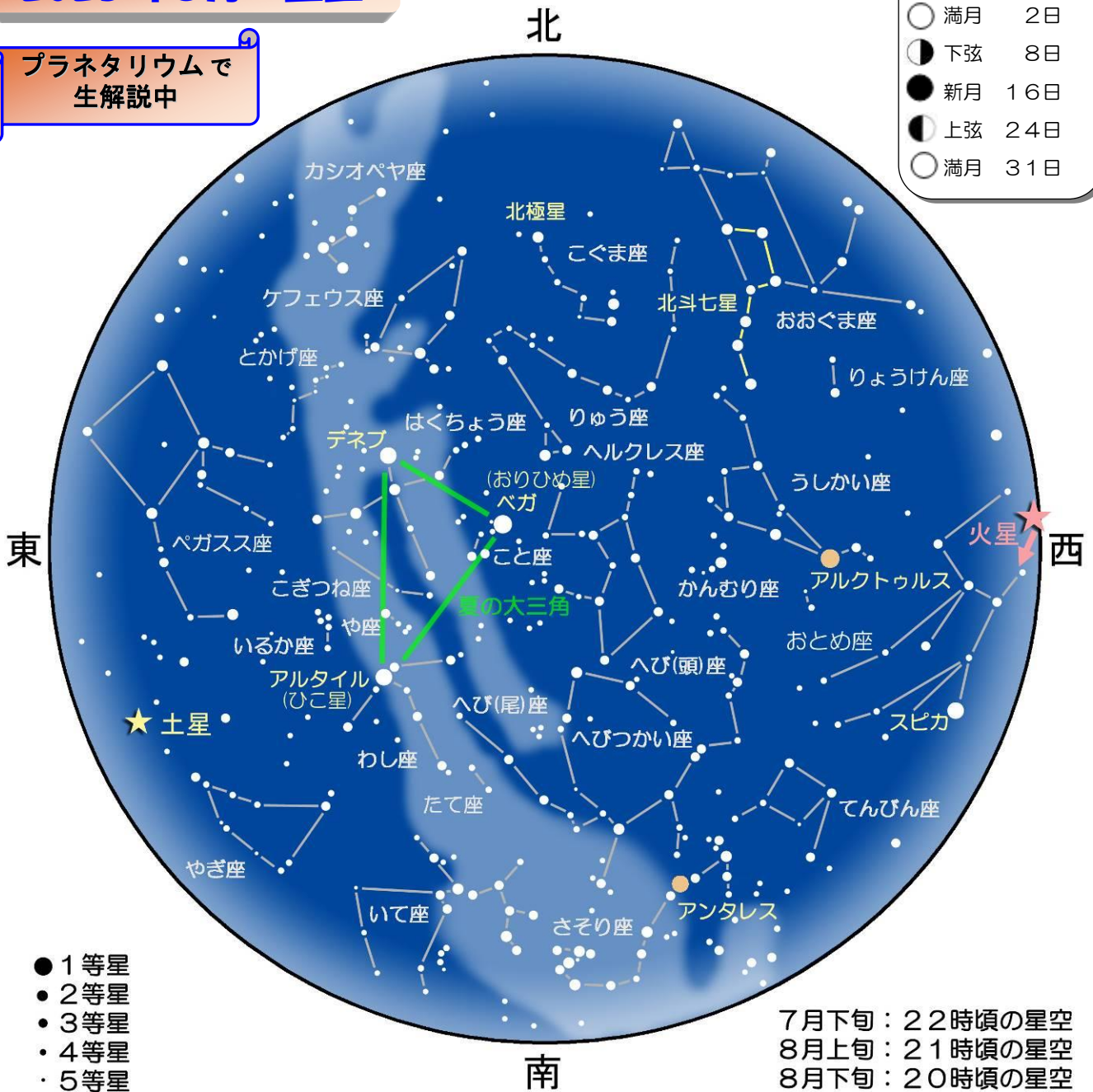
★入館料のみでご覧いただけます 一般(高校生以上)300円、中学生以下 無料
鳥取市さじアストロパーク 〒689-1312 鳥取市佐治町高山1071-1
TEL 0858-89-1011 FAX 0858-88-0103 HP: Youtubeは「さじアストロパーク」で検索

2023年8月の星空

8月の月の暦

○	満月	2日
◐	下弦	8日
●	新月	16日
◑	上弦	24日
○	満月	31日

プラネタリウムで
生解説中



7月下旬：22時頃の星空
8月上旬：21時頃の星空
8月下旬：20時頃の星空

☆梅雨が明けると星空は夏の星たちでいっぱいです。天気が安定する頃で星空巡りを楽しめますね。
 ☆東の空から頭の真上にかけて「夏の大三角」が見えています。「ベガ」「アルタイル」「デネブ」の3つの1等星でできる三角です。ベガは七夕の「おりひめ星」、アルタイルが「ひこ星」です。2023年は8月22日が伝統的七夕(旧暦の七夕)になります。夏の大三角を目印に、天の川を見つけてみましょう。
 ☆ずっと天の西空で明るく輝いていた「金星」が、いつの間にか見えなくなっています。8月13日に内合(地球と太陽の間を通過)となり、一旦見えなくなったあと9月上旬以降、明け方東の空に見え始めます。東の空低いところに「土星」が見え始めました。肉眼ではほかの星と同じように点にしか見えませんが、望遠鏡を向けると「輪」が見えます。観望会でも人気の天体の一つです。



さじアストロパーク

検索

プラネタリウムや観望会の時間、休館日、宿泊の予約など詳しい情報についてはホームページ&Facebookでチェック。Youtubeも開設。

鳥取市さじアストロパーク

〒689-1312 鳥取市佐治町高山 1071-1

TEL 0858-89-1011 FAX 0858-88-0103

e-mail sj-astro@city.tottori.lg.jp